

審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課

会議名 令和3年度 第1回諏訪市美術館協議会

開催日時 令和3年 8月 4日(水) 13時30分 から 14時30分まで

出席者
 委員：小尾建二、小池剛、濱祥子、藤森民雄、宮坂武芳、村松晋（敬称略）
 （会議欠席委員）内山恵子、鈴木真知子、竹森公男、藤森汎
 事務局：細野教育次長、小林生涯学習課長、濱館長、古川主事
 オブザーバー：玉本教育委員

資料 令和3年度第1回諏訪市美術館協議会 資料一式

協議議題(内容)及び会議結果(要旨) ●質問・意見 ○事務局説明

1. 開会

2. 教育次長挨拶

3. 自己紹介

4. 協議(進行:宮坂副委員長)

(1)令和2年度事業報告

事務局より資料に基づき、報告、説明

(2)令和3年度事業計画と経過報告

事務局より資料に基づき説明

●燻蒸とは何をするのか。期間も長い。燻蒸を10月の観光シーズンにやるのは何故か。もっと人が来ない時期に設定したほうが良かったのでは。

○施設や作品の加害生物やカビを退治するために毒ガスを噴霧するもの。環境調査を行い、現状にあった殺虫殺カビ燻蒸を行うことにした。燻蒸期間は1週間ほどだが、作品の移動等に手間がかかるため、休館することにした。燻蒸の薬剤が効果を発揮する適温を踏まえ、展覧会と展覧会の狭間であるこの時期に行うことにした。今後も良い方法を研究していきたい。

●学校との連携について、自分が受け持っていたクラスで、今村さんとのコラボレーション展をやらせてもらった。他にも市内、郡内の様々な美術館と連携して活動を進めたが、繰り返しているうちに、美術館で楽しいな、とほとんどの子が言うようになってくる。ワークショップやイベントに参加したりすることを繰り返して、美術館に行ったことがある子どもが増えていくと、敷居がもっと低くなって、色んな子たちに美術館が面白い場所だと伝わると思う。

●本物の作品を貸し出してくれての鑑賞学習も、とても意味があると思うので今後も続けてほしい。

●子ども達は見せていただく作品の描き方の違いなどにもちゃんと気付ける。作品を美術館に飾ってもらって嬉しそうにしたり、もっと頑張れば良かったと悔しそうだったり、色んな反応があった。自分で授業するだけではなかなかうまくできない部分もあるので非常にありがたい。

●今教育活動において、地域と連携するというのはとても大きな柱となっている。教育現場では、先生の美術免許取得者の減少や、美術・図工の授業内容の変化、価値観の多様性など様々な課題がある。そこに美術館が加わることで、既成の教育ではないところに踏み込んで行けると思うので、非常に可能性があり期待ができる取組だと思う。

●市美術展のジュニア展には、子ども達、特に地元高校生から多くの作品が出品される。素晴らしい作品が寄せられ、若者の作品から会員が学ぶことも多い。

5. その他

宮坂副委員長より春陽展について案内

事務局より館外収蔵品倉庫移転準備事業の進捗状況について説明

6. 閉会 玉本教育委員(オブザーバー)より挨拶